

令和7年度 学びの充実あと押し事業 「シンプル・プログラム」と「おひさまカフェ」の挑戦

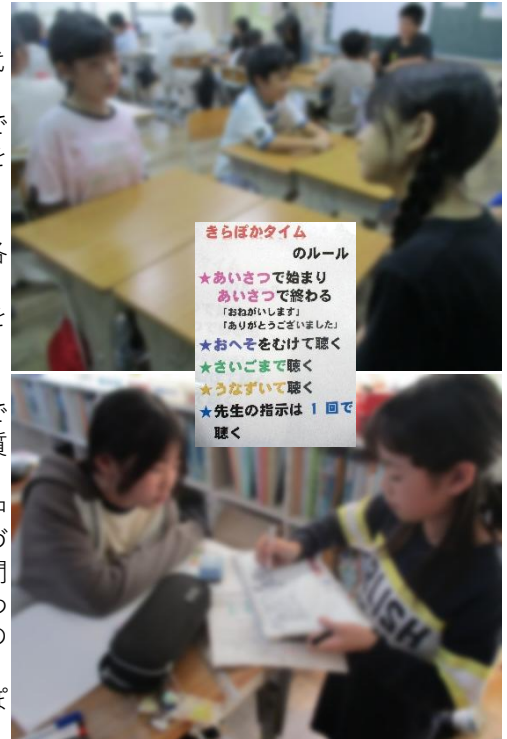
実践内容

【シンプル・プログラムの実践】

塩尻市立吉田小学校では、本年度より、かかわりプログラムSimple代表(元名城大学教授)の曾山和彦先生が提唱する「シンプル・プログラム」に取り組んできた。「シンプル・プログラム」とは、学校現場での子どもの「かかわりの力(ソーシャルスキル&自尊感情)」の育成を目指すプログラム。二つの柱からなり、一つの柱は週1回、10分の活動時間で3~4人がグループとなって、楽しくかかわりながら「話す・聴く」という演習に取り組む「きらぼかタイム」。もう一つの柱は「各教科等でのペア・グループ活動「きらぼかトーク」。「きらぼかタイム」で身に付けたスキルを授業での場面につなげ、「かかわりの力」を強化していくねらいで年間を通して実践を重ねてきた。

「きらぼかタイム」は、統一ルール『「おねがいします」で始まり「ありがとうございました」で終わる、おへそを向けて聴く、最後まで聴く、うなずいて聴く、先生の話は一回で聴く』というルールの下、質問じゃんけんやアドジャン、一分間スピーチを実施。「きらぼかトーク」は、「きらぼかタイム」のルールを踏襲しながら、普段の授業の中でペア・グループ活動に位置づけてきた。この他に、合理的配慮に基づいた「吉田スタイル」の確立と実施、フラッシュカードを使った1時間の授業の流れの黒板横への掲示、三観点を位置づけた1時間の流れがわかる構造的板書などの実践を通して、一人の児童も取り残さない学びの場の構築に努めてきた。

学級づくりの基盤「きらぼかタイム」と、授業づくりの基盤「きらぼかトーク」という両輪を大切に、今後も実践を積み重ねていきたい。



【おひさまカフェの実践】

本校では、今年度より「研究」という堅苦しく抵抗感のある取り組みに代わる新たな時間として「おひさまカフェ」を提唱し、お茶を片手に気軽に職員が日々の実践について語り合う場を設けてきた。年度当初に職員一人一人が決めた「自己課題」の解決に向けて日々実践を進めたり、同僚と日頃の実践や悩みについて日々語り合ったりしながら研鑽を重ねてきた。自己課題を意識した一人一公開も年間を通して取り組み、お互いの実践にふれる機会も設けてきた。さらに、曾山和彦先生や総合教育センターの先生など、定期的に外部講師をお招きしながら自己の変容につなげてきた。1月19日(月)には、「おひさまカフェトーク~アウトプットDAY」と題し、学校運営協議会の方々や他校の研究主任の先生方をお招きし、一年間の成果を一人ひとり発表して成果を共有し合った。

成果と課題

【シンプル・プログラム】

週1回10分のトレーニングが積み重ねとなり、学級経営や人間関係にいい影響を与えている。普段の関わりの中で柔らかい言葉が使えるようになってきたと手応えを感じている職員も多い。同時に、今年度の学校目標「聴く」への意識も継続できており、相手の話を聴くことができる児童が増えてきている。「かかわり力」の向上が少しずつ児童の自信と学校運営の地盤となりつつあり、不登校児童の減少につながってきた。一方、「きらぼかタイム」のルールが、日々の授業の中の「きらぼかトーク」に学校全体として位置づけられていない。ルールを授業で明示したり、意識させたりすることにより、日々のトレーニングと授業のつながりを大切に学校全体で実践を進めたい。

【おひさまカフェ】

定期的に気軽に日頃の取り組みや悩みについて話をするのできる場を設定することにより、自己課題の近い仲間と部会を組んで悩みを共有したり、職員間のつながりが広まったり、深まったりすることができている。職員の「研究」に対する抵抗を少し和らげることにつながったとは思いますが、実際の内容自体はまだ難しく抵抗を感じるものもあり、依然として参加に難色を示す職員もいる。自己の変容について抵抗感を抱く職員もいる。また、同僚の授業実践への関心が低い、自身の学級や授業から抜け出せないという理由で、一人一公開授業の参観率が低い。さらに気軽に足を運ぶのできる職員の学びの場を提案していきたい。